

中国のEV市場報告



2021年12月22日

アジア研究会

NHK SPECIAL
スペシャル



THE IMPACT OF
THE

EV
SHIFT

EVシフトの衝撃

～岐路に立つ自動車大国・日本～

＝ 世界のEV販売台数 (2020年/ブランド別) ＝

			販売台数
1		▶ テスラ	458,385
2		▶ 三菱	131,517
3		▶ BYD	130,970
4		▶ フォルクスワーゲン	128,046
5		▶ ルノー	111,429
6		▶ ヒョンデ	80,553
7		▶ 日産	62,678
8		▶ 広汽新能源	59,545
9		▶ 欧拉	56,261
10		▶ キア	48,285



各国・地域で続々と「電動化」政策

各国の自動車に関する環境目標



英国

2030年までにガソリン車の新車販売禁止。35年までにHVの販売も禁止



欧州

35年にHVを含むガソリン車の新車販売を事実上禁止する方針



日本

35年までに乗用車の新車販売に占める電動化比率を100%に(HVを含む)



米国

30年までに新車販売の50%以上をEV、FCV、PHVとする方針



中国

35年までに新車販売に占める電動化比率を100%に(HVを含む)。50%はEVを柱とする新エネルギー車、残りの50%はHVにする

(出所) 各国・地域の発表を基に本誌作成

自動車電動化を巡る世界と国内メーカーの動き



EVで変わる/自動車業界の主導権

→ 資本関係
— 提携

① モビリティサービス

アップル EV参入を検討

AutoX 自動運転技術を開発。ホンダ車で自動運転の実証実験

モネ・テクノロジーズ トヨタとソフトバンクの合併。文通課題解決を目指す

オーロラ・イノベーション 自動運転でトヨタと協業。米ウーバーの自動運転部門を統合

ウーブン・プラネット・ホールディングス 自動運転やスマートシティなど新領域を開拓

ウェイモ グーグルの自動運転部門が独立。2018年から無人ライドシェアを開始

百度 自動運転の企業連合に、トヨタやホンダ、VWなどが参加

滴滴出行 中国ライドシェア大手。テンセントが参画。次世代車両開発も

Lyft ライドシェア大手。自動運転開発部門をウーブンに売却

文通知行 無人タクシー技術を開発

完成車メーカー

ステランティス

テスラ 自動運転技術や電池などを自動で開発

北京汽車集団

ダイムラー

フォルクスワーゲン(VW)

ホンダ EVや電池で協業

ゼネラル・モーターズ

トヨタ自動車

上汽通用五菱汽車 小型電気EV「宏光MINI EV」がヒット

日産自動車

パナソニック 車載電池3位

寧徳時代新エネルギー (CATL) 車載電池世界首位。中、欧に続き米国進出の見通しも

ノーボル 欧州初の本格的車載電池メーカー

LG化学 車載電池2位。GMと電池で提携

国軒高科 車載電池中堅。VWが参画

② 車載システムのサプライヤー

鴻海精密工業 EVプラットフォームを開発し、車の受託製造を回す

ボッシュ 部品最大手。電動歯ブラシやスマートフォンのシステムなどを供給

マグナ・インターナショナル 部品大手で、EVの製造を受託

華為技術 自動運転用のOSや車載コックピットなどを開発

コンチネンタル 部品大手。車載用センサーなど自動運転関連に強い

日本電産 車載用モーターに注力

ヴェロダインライダー 自動運転車の「目」、ライダーを開発

エヌビディア 画像処理用半導体大手。車載用半導体をVW、テスラ、トヨタなどが採用

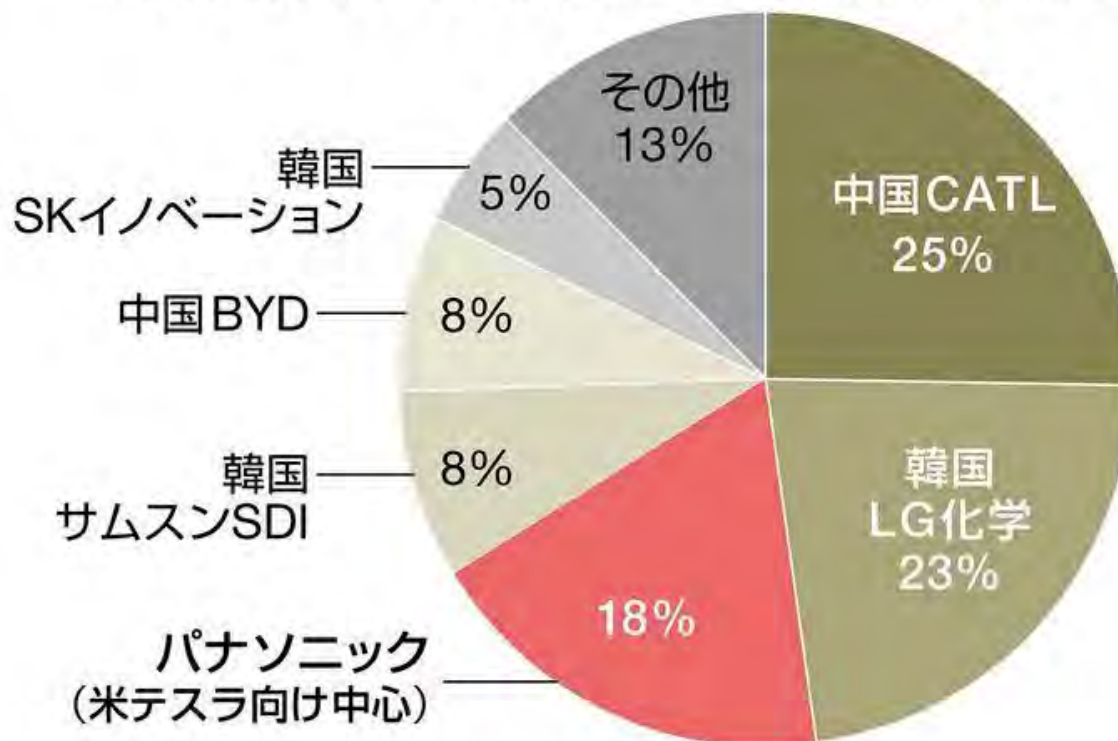
モービルアイ 米インテル傘下。車載センサー用カメラに強み。VWと自動運転技術で協業

③ EV向け部品のサプライヤー

車載用電池市場

■ かつてシェア首位のパナは3位に陥落

— 車載用電池のメーカー別出荷シェア(2020年の予測値) —

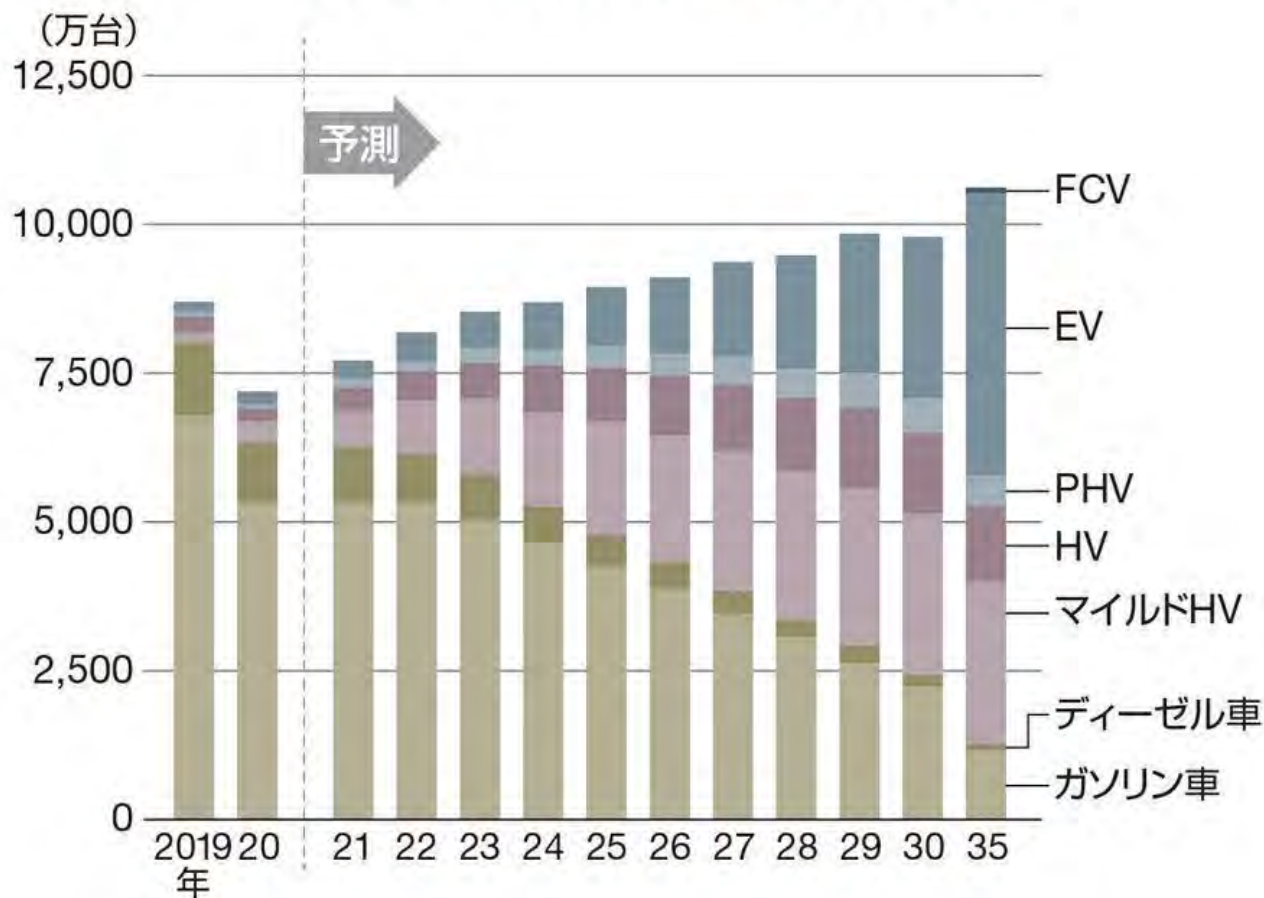


(出所)テクノ・システム・リサーチの調査を基に本誌作成

Point
3

2035年にはEVが5割近くに

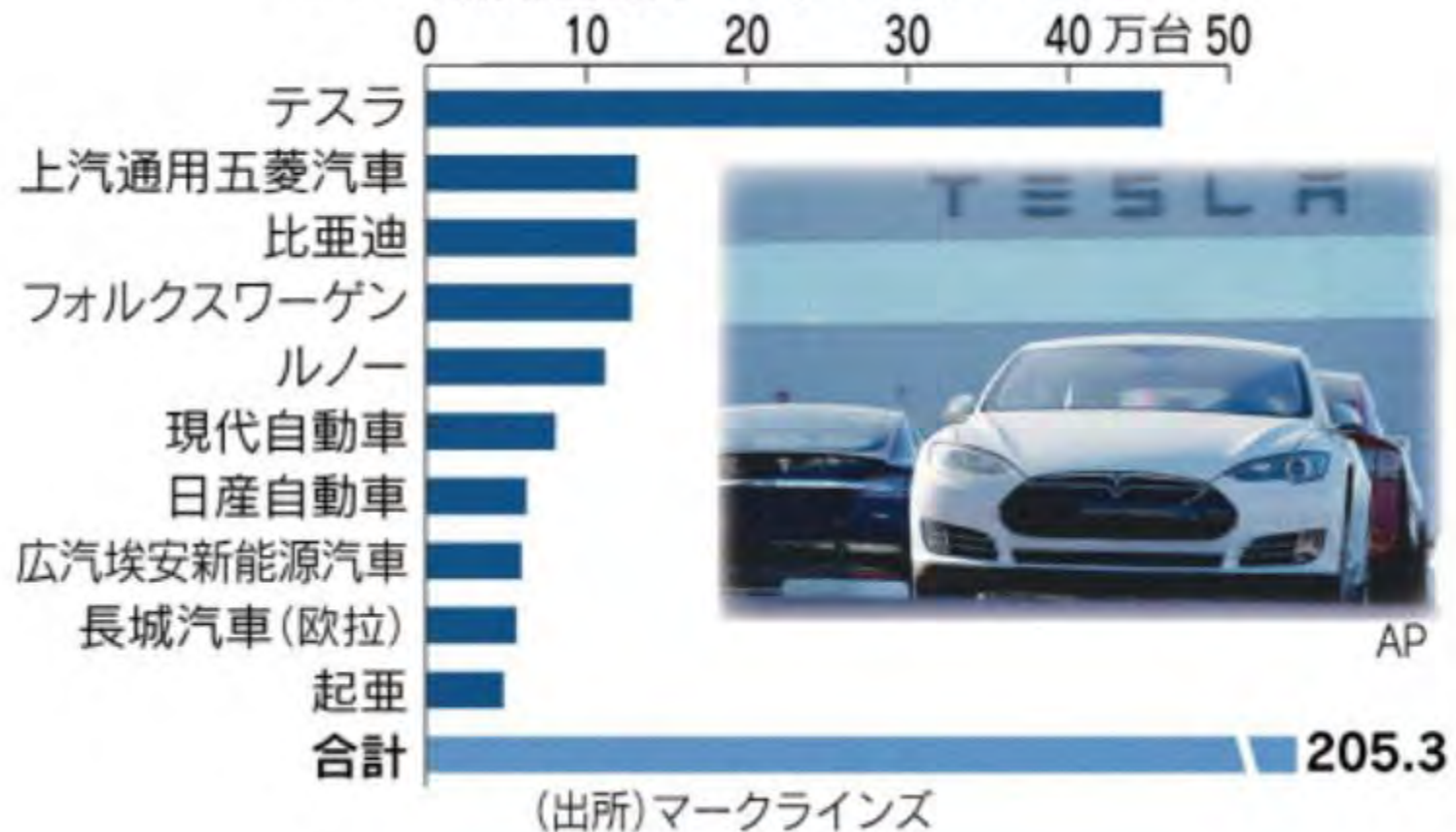
世界新車市場における電動車台数の予測



(注) 2020年までは実績、21年以降は予測

(出所) 米ボストン コンサルティング グループの資料を基に本誌作成

EVの販売台数ランキング(2020年)



(日経211130)

日本はEVで最後にどう勝つ



世界初の量産型EVの日産「リーフ」

(日経211130)

日経211120より



広州汽車集団の「AION」は充電1回あたりの航続距離で1000キロメートル超をうたう



F018

画像の拡大

長城汽車の高級ブランド「沙竜」は初のEV「機甲竜」を発表した



Fo
18 画像の拡大

北京汽車集團系の極狐（アークフォックス）は、華為技術の部品やソフトを組み込んだ新EVを披露した



NIOが2022年に投入する新型車は初めてのセダンとなる（同社イベントの中継動画より）

中国BYDの日本向け高級EV



紅旗の新型EVモデル「E-HS9」。SUVタイプの高級EVで、価格は未定だが1100万円からの予定

(日経電子版211217)

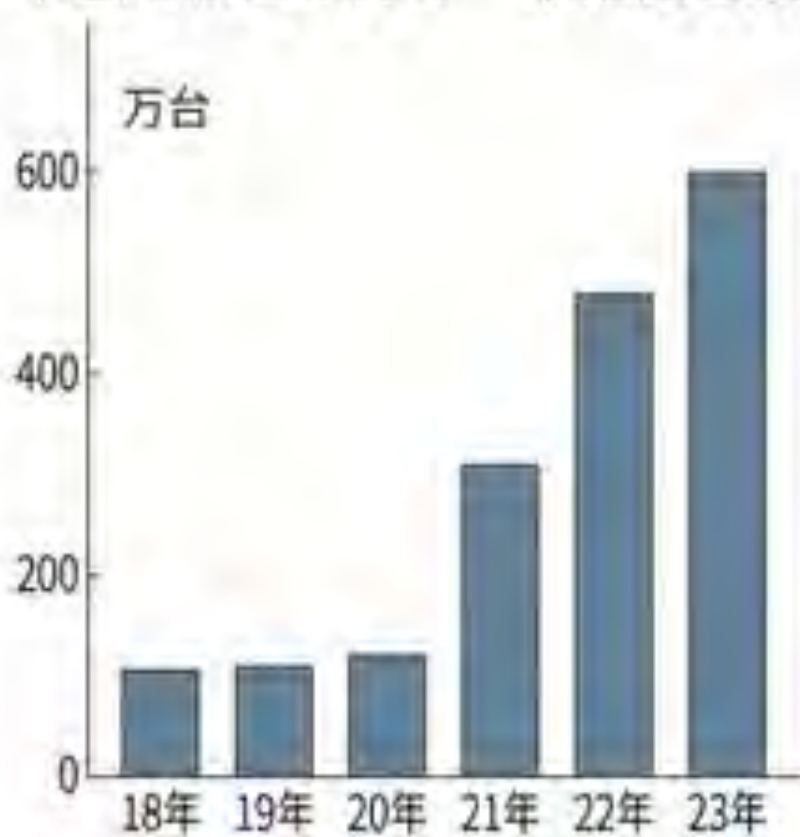
日本初店舗で販売 中国「紅旗」



日本初の店舗で販売する「紅旗」の「H9」（19日、大阪市）

（日経211220）

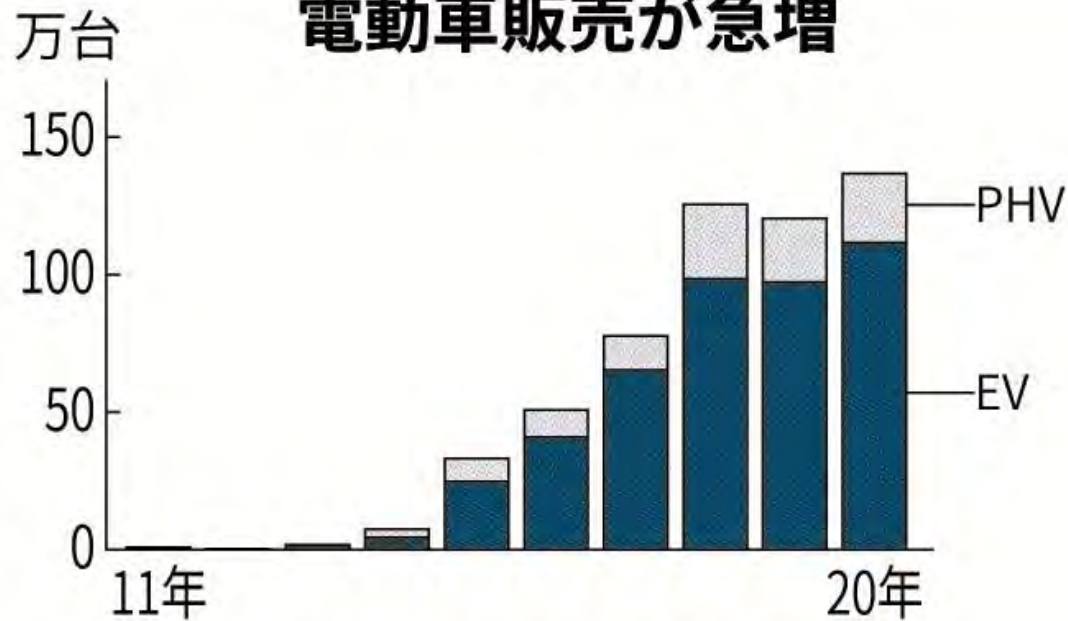
中国の新エネルギー車販売台数



(注) 乗用車、21年以降は予測

(出所) 英LMCオートモーティブ

電動車販売が急増



(注) 中国の電動車の新車販売台数

(出所) 中国汽車工業協会

(日経211218)

NIKKEI

中国新車販売台数 (2020年)	: 約2500万台 = 日本の約5倍
EV販売台数	: 約110万台

宏光MINI EVのコスト構造



(注)分解前の写真



リチウムイオン電池
(13.9キロワット時)

16万円

合計48万円



電動系
(駆動モーター、
減速機、
インバーターなど)

5万円



電装系
(充電器、DC-DC
コンバーターなど)

6万円

ボディー、内装など

5万円



装備
(エアコン・コンプ
レッサーなど)

6万円

足回り系
(タイヤ、サスペンションなど)

4万円

組み立て・販売・
サービス

6万円

EV市場

EV普及、巨大な実験場 上海ショー 中国「25年に700万台」 VWやトヨタ本命投入

世界の自動車大手の新エネ車販売台数

		万台
1	比亞迪 (BYD、中)	24.7
2	テスラ (米)	24.5
3	北京汽車集団 (中)	15.8
4	BMW (独)	14.3
5	フォルクスワーゲン (独)	10.0
6	上海汽車集団 (中)	9.7
7	日産自動車	9.7
8	奇瑞汽車 (中)	9.1
9	浙江吉利控股集団 (中)	7.9
10	安徽江淮汽車集団 (中)	6.4

(注) 各社の発表資料やメディアの報道などから作成。2018年

世界の車載用電池の出荷ランキング

		ギガワット時
1	CATL (中)	23.5
2	パナソニック	23.3
3	BYD (中)	11.6
4	LG化学 (韓)	7.5
5	AESC (中)	3.7
6	サムスンSDI (韓)	3.5
7	国軒高科 (中)	3.0
8	天津力神 (中)	2.1
9	孚能科技 (中)	2.0
10	比克電池 (中)	1.8

(注) 中国・深圳市起点諮詢調査。2018年

(日経190419)



(2019年2月) 中国出張

テスラ SUV中国量産

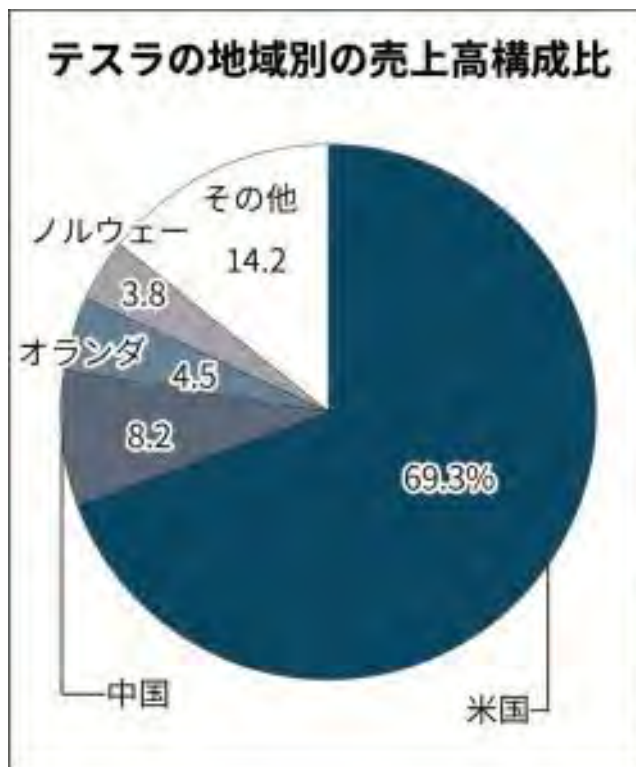
価格抑え最大市場攻略 「モデルY」

現地新興勢を意識



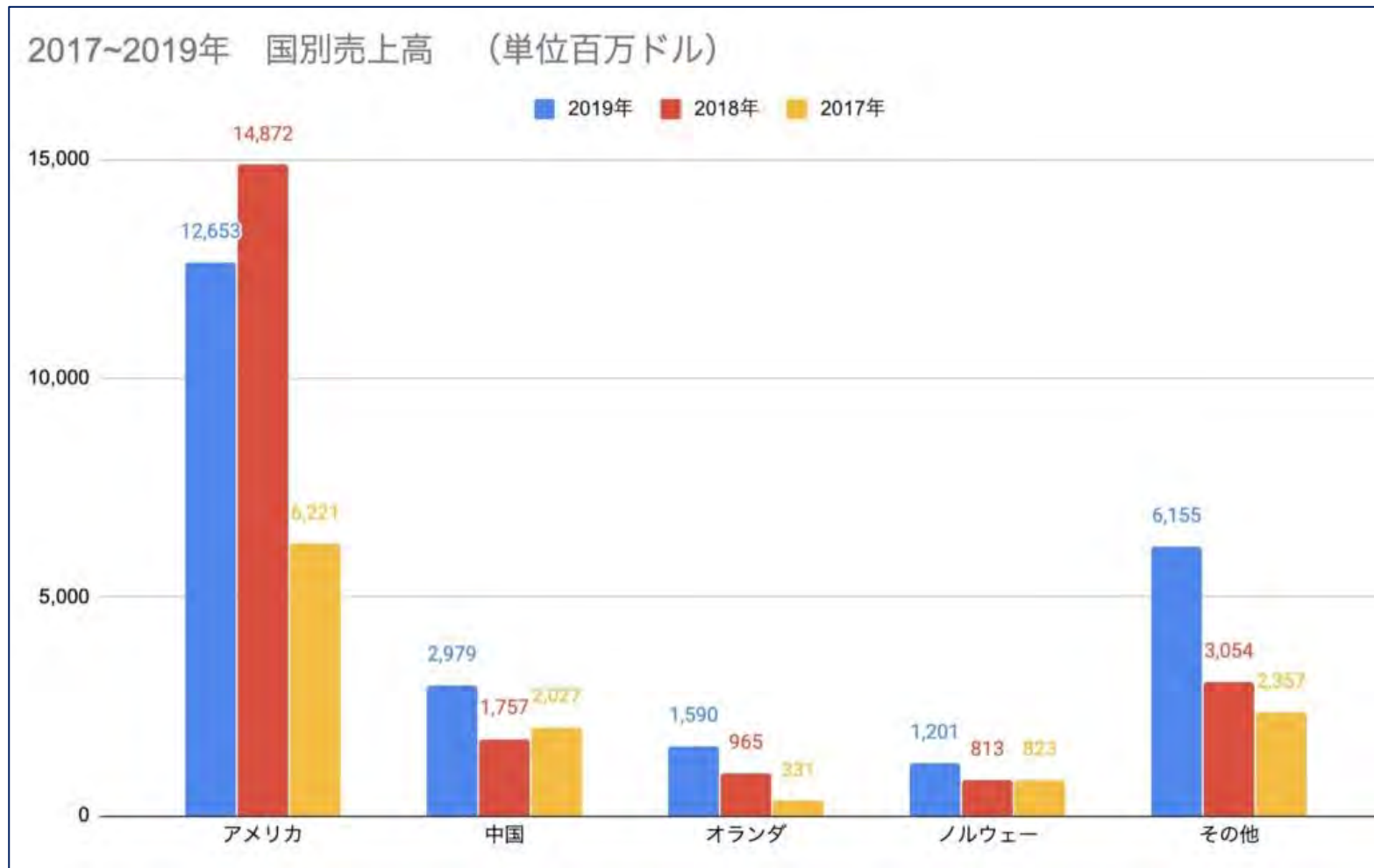
米テスラが14日、初披露した新型SUV
「モデルY」。

中国市場での拡販を狙った戦略車となる
＝ A P



(日経190316)

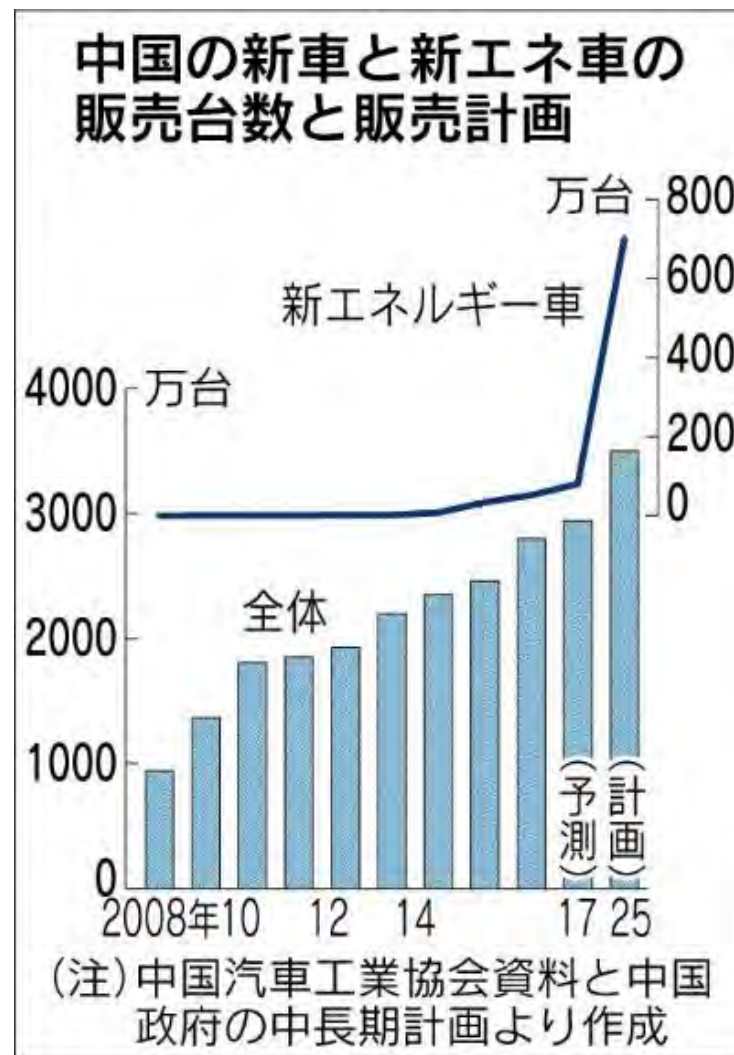
テスラの国別売上高



新エネルギー車 (EV) 事情



天津市内
↑



日経170929 新エネ車義務付け



NHK BS1 ワールドウォッチング
170904



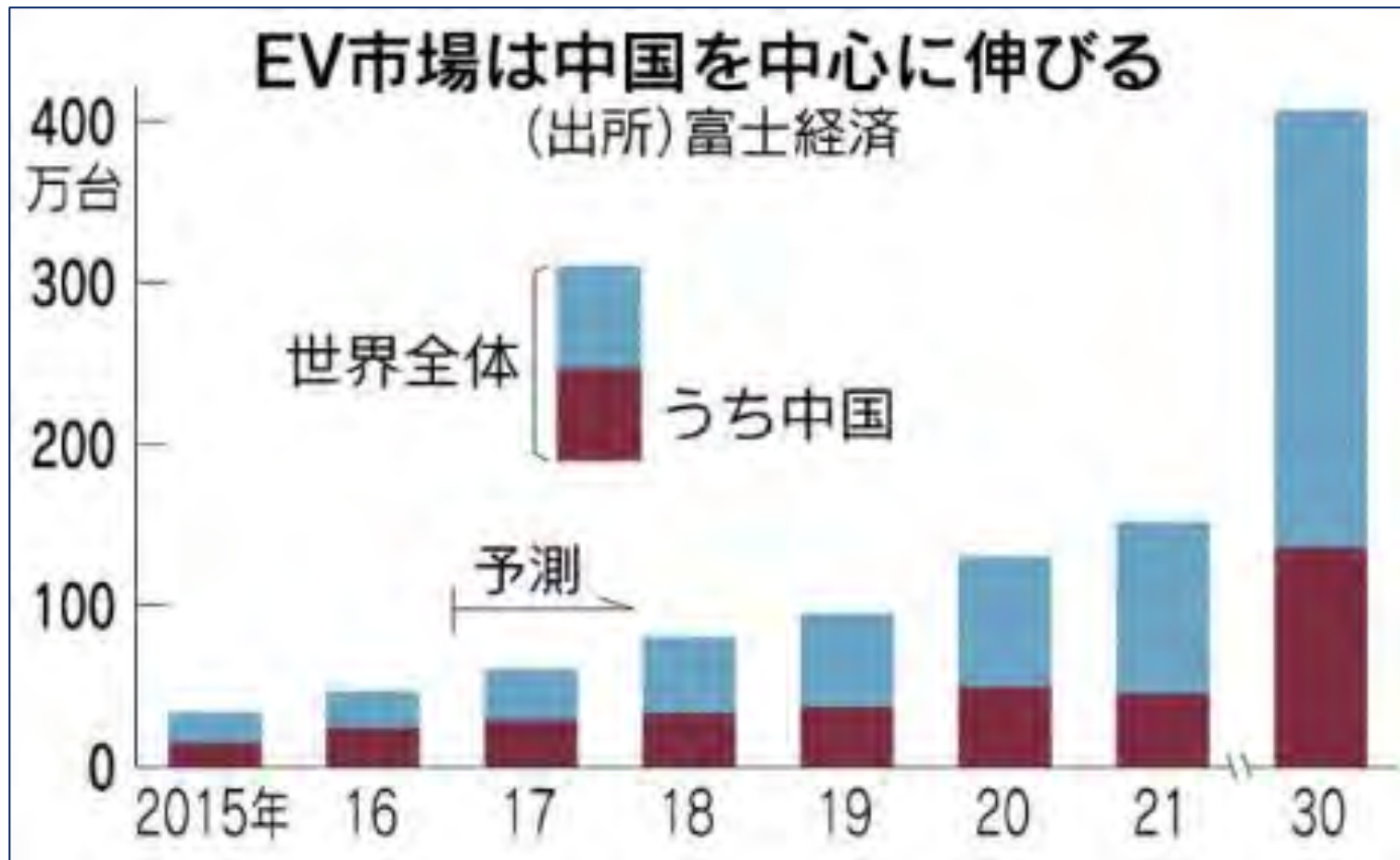
テスラ販売店 ↓

比亞迪 (BYD) →
(電池メーカー)



アジア研究会

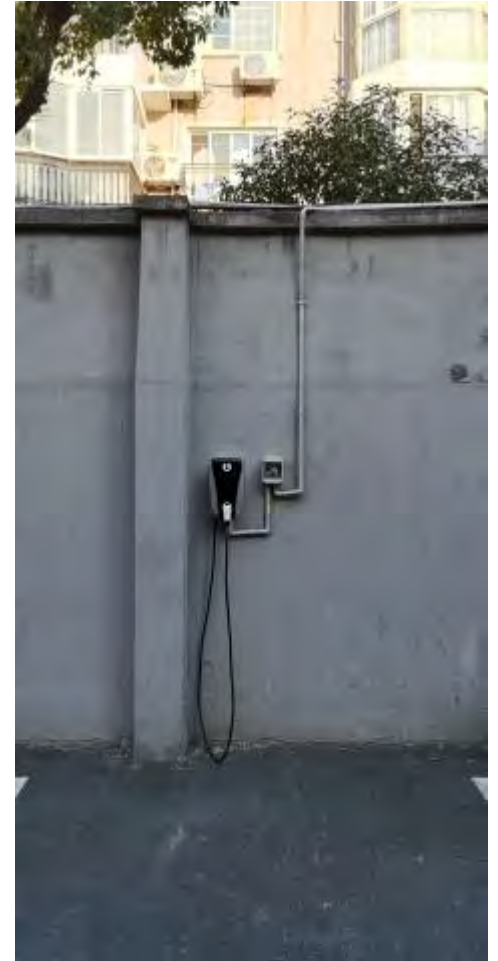
世界のEV車市場



日経171014

最近の上海市内

(2021年12月20日撮影)



中国、EV充電「4時間待ち」も 新エネ車が 急速普及、設備不足で高速大渋滞



中国各地で電気自動車（EV）の充電設備が増設されているが、それを上回るスピードでEVが急速に普及している＝11月、中国福建省の平潭島

（西日本新聞211205）